

(別紙3)

福岡県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証/評価報告
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	誘導柵を用いたくくり罠捕獲技術の実証(ニホンジカ)
実証地域	耶馬日田英彦山国定公園
実証時期	令和7年5月～令和8年2月
実施体制	事業者へ委託
事業費	7,162,000円

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の目的・目標、実施状況、効果、課題等

福岡県の耶馬日田英彦山国定公園では、平成28年度からシカの捕獲事業を継続実施しており、スレジカが発生する中でいかに捕獲効率を高めるかが課題となっている。

シカは、できるだけ障害物を避けて楽に移動できるルートを好んで利用する習性があることが知られており、「跨ぎ」や「寄せ木」などの技術はこれを利用したものであるが、いたずらに障害物を配置すればかえって捕獲効率を下げってしまう恐れがある。

そこで、耶馬日田英彦山国定公園において、これまで実施していないシカの誘導用の簡易柵を設置することで、シカの行動を制限し、捕獲効率を高めることができるのかを実証検証した。

<令和7年度現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の目標頭数>

190頭(効果的捕獲促進事業での捕獲頭数を含む)

注：捕獲等事業によって目指す地域の状況や、軽減したい被害に関する目標、そのために必要な密度低減の考え方や捕獲数、捕獲の実施状況・効果・課題等を記載すること。

3 地域実証する技術の目的・目標・具体的な内容・効果等

<目的・目標>

誘導柵の設置により、シカの行動を制限し、誘導することでくくりわなによる捕獲効率を高めることができるかを検証する。また、設置場所の地形、環境条件の違いや、誘導柵の素材等の違いが与える影響を評価し、管理捕獲に適した条件について検証。

<具体的な内容・効果>

(ア) 実験地 1、3

- ① シカの好適環境とされる日当たりの良い緩傾斜地または平地で、実験地ごとに3箇所、シカの利用頻度の高い獣道を選定。
- ② センサーカメラを用いて獣道の利用状況を調査し、利用頻度の高い獣道以外のシカの移動経路（低頻度）を遮断するように、3つの獣道にそれぞれ素材の異なる3種類の誘導柵（ステンレス線入り防護ネット、ポリエチレン製鳥獣害防止ネット、遮光ネット柵）を設置し、同時に、誘導柵へのシカの反応を確認。
また、誘導柵の有無による捕獲効率の違いを検証するため、比較地を設定。
- ③ シカが誘導柵周辺を移動するようになったら、くくりわなを誘導柵及び比較地周辺に設置し、1週間程度管理捕獲を定置式捕獲法により実施。

(イ) 実験地 2

- ① 傾斜地でシカの利用頻度の高い獣道を1箇所選定。
- ② センサーカメラを用いて獣道の利用状況を調査し、利用頻度の高い獣道以外のシカの移動経路（低頻度）を遮断するように、誘導柵を設置。
- ③ 誘導柵周辺にくくりわなを設置し、間隔を空けて素材の異なる2種類の誘導柵（ステンレス線入り防護ネット、遮光ネット柵）を用いて、1週間程度管理捕獲を定置式捕獲法により実施。

注1：2を踏まえて、地域実証する目的や必要性、実証の場所や日程、方法、内容、想定される効果等を具体的に記載すること。

注2：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

注3：事業終了後の評価報告においては、注1～2について実施した内容・結果を具体的に記入すること。

4 技術の効果の検証・評価方法/結果

<検証及び評価方法>

- ① 3種類の誘導柵の違いにより、シカの行動変化や馴化に要する時間、捕獲効率を確認。
- ② 地形条件の違いにより、検証結果に差があるか確認。
- ③ 捕獲成功率、わなの誤作動率、次の捕獲にかかるまでの日数等を比較検証。

<結果・効果>

① 捕獲実証実験

馴化期間を挟み、2回の捕獲期間で捕獲（①225基日、②140基日）を実施した結果、実験地1（落葉広葉樹林の谷部の緩傾斜地）で9頭、実験地2（落葉広葉樹林の斜面）で3頭、実験地3（人工林の尾根部の緩傾斜地・平坦地）で1頭の合計13頭捕獲した。

② 誘導柵に対するシカの行動の確認

3種類の誘導柵（防護ネット、遮光ネット、鳥獣ネット）を用いた結果、視界がほぼ遮られる遮光ネット柵はシカの警戒心が高まり接近しなかった可能性があるが、捕獲効率等については、誘導柵の素材の違いによる差はみられなかった。

休止期間を挟めば、誘導柵により移動が制限されることで、くくりわなの捕獲効率を向上させることができると考えられた。

③ 設置場所の地形、環境条件の確認

シカの利用頻度の高い場所の緩傾斜地では、誘導柵が有効である可能性があるが、誘導柵を設置する設置場所の選定や誘導柵の張り方に知見や事前調査が必要。

注：3を踏まえ、実施結果の確認方法や目的・目標に対する地域実証の効果を図るための指標（被害指標や密度指標等）やその収集方法、評価の方法等について記入すること（事業終了後の評価報告においては、その評価結果を具体的に記入すること。）。

5 技術の活用・普及方法、その他

誘導柵とくくりわなを組み合わせることで、捕獲効率を向上させることができると考えられる。

一方で、誘導柵を設置する場所は、落葉広葉樹林のある緩傾斜地など好適環境に限定され、場所の選定や誘導柵の張り方に知見が必要となる。

誘導柵の素材の違いや捕獲効率等のデータが不足していることから、引き続き、利用頻度の高い環境等における検証が必要。

注1：地域実証する技術の活用・普及方法について記載するとともに、地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。